

税についての作文で長野さんが 東京国税局管内納連優秀賞を受賞

全国納税貯蓄組合連合会並びに国税庁が主催した中学生の「税についての作文」。本町から作品を応募した神崎中学校3年の長野佑紀さんが、見事、東京国税局管内納連優秀賞を受賞しました。また、石橋優美さんの作品が佐原税務所管内納連優秀賞に、五ヶ市歩美さんが佐原税務所管内納連佳作に入賞しました。

東京国税局管内納連優秀賞を受賞しました長野佑紀さんの作文を紹介します。

ありがとうを形に

神崎中学校3年

長野 佑紀さん



「協力」という言葉がある。一つの目的のために皆で力を合わせるという意味がある。中学三年生の

今日まで幾度となくこの言葉を耳にしてきた。私は税を通して大切なことを見つめる。その瞬間、私の中の何かが変わり始めた。

何げなく一日が始まり、何もなく一日が終わる。勉強は難しくていやだな。私の周りには、いつも変わらない、普通の時間が流れていた。ふとテレビをつけた時、消費税のことについて討論が行われていた。しばらく聞いていたが、一向に話が分からない。そういえば私、税のこと何も知らない。税に対して、関心がないどころか興味すらなかった。「税っていったい、なんなんだろう。」

驚きが全身を突き抜けたのは、こんなにも税が私たちの身のまわりに関わっているということだ。朝起きて夜寝るまで、私たちの生活は税によって支えられている。また、あたり前のように通っている学校で勉強ができるのは、税という形で皆に支えられているからだ。見上げると一面に広がる美しい山々も、きれいな水も全て税金では生まれてこない。医療や福

祉が充実しているから安心して暮らすことができる。警察や消防が身近にあるから安全な生活が守られている。つまり、税は皆の生活を支える柱なのだ。私はこんなに税金に支えられていたことを知らなかった自分を恥ずかしく思った。それと同時に、税に対して「ありがとう」と自然に思える自分を見つめることができた。私はこれから、税への「ありがとう」の気持ちを忘れずに生活していこうと思う。何げなく始まる一日に、何もなく終わる一日に、その平和に、最大限の感謝の気持ちを持たなければならぬ。

しかし最近では、税を払うことに不満を持っている人も少なからずいると感じる。税がなかったら、もっと楽に生活できるだろうと思っている人も多い。けれどそれは間違った考え方だ。税は皆の幸せのために存在する。たくさんのお金の協力があって、今自分は生かされている。このことを忘れてはいけないと思う。また、税は消えてなくなるものではない。たくさんのお金で姿を変え、いずれは自分のところへ「幸せ」という形で返ってくる。一人一人の税への意識が「税をとられる」ではなく、自

分の周り全てのものに対し「ありがとう」という気持ちで税を納めることができたなら、きっと温かくて、優しい国になると思う。私が納税者になった時、この気持ちを持って税を納めたい。人は皆、一人では生きられない。たくさんの人に支えられて生きていくという確かな認識を持つことが大切だと思う。

国・県・町による申告相談会のお知らせ

日時 平成23年1月25日(火)
9:30~12:00 13:00~15:30

場所 神崎町役場2階 第2会議室

持参していただくもの

- ・所得税の確定申告書用紙(郵送された人)
 - ・前年の申告書や収支内訳書などの控え
 - ・その他、上記申告に必要なもの
- 申告期間中は混雑が予想されますので、お早目の申告をお願いします。